

## それぞれの第九

[28分]



「子供が見て、感じて、ストレートにわかるものを、親は探していかなければならないんじゃないかな」3人娘の良き父親、工務店を経営する岡崎勇二さん(42)。

「これからは、芸術家の真似ごとをしようじゃないかっていう気持ちがあるんですよ」合唱団最高齢の弁護士、土屋 豊さん(82)。

きなさ

郵便局員の夫の転勤で、生まれ育った豊島区を離れ、長野県鬼無里村へ移った後も、「この第九だけは、私のこのふるさと豊島区での24年間のためにも必ず、何としても歌ってゆきたい」と頑張り続けた山崎裕子さん(24)。

「その時、その時、自分がかかわっていることを、できるだけ一所懸命やりたいなと思っています」大学に入ってから始めたフィギュアスケートと第九の掛け持ちをひたむきにこなしてきた相澤朋子さん(18)。

合唱団員一人ひとりが「それぞれの思い」を胸に参加し、歓喜の大合唱をつくりあげるまでの半年間を、区民の家庭、職場といった日常生活や練習風景を織り交ぜて描いた、「区民でつくる第九演奏会」のドキュメントです。

また一つ、豊島区に人の輪ができ、そこから区民手づくりの文化が生まれました。

[平成元年度製作]